

その入賞の陰には塘内オーナーの的確なタクティクスがあったのは言うまでもない。(彰)

タモリカップクラス3位入賞の発表を聞いた後、急いで横浜から品川の屋形船「三河屋」に向かった。○田氏はこの催しの発案者で、皆さんが楽しめるのか不安な胸中の中17時45分到着、船の軒先に赤ちょうちんを並べた屋形船が待っていた。出航時はまだ明るくお台場沖に着くあたりからうす暗くなり、これもまたトワイライトタイムで気持ちを盛り上げてくれる。屋形船の航路も色々あるようだが、このお台場沖で停泊し屋根上に上がって、フジテレビ、高層ビル群、レインボーブリッジに囲まれ華やかな光に包まれた時間は今までにはない経験だ。30分のアンカリング中にその光と雰囲気からだ全体で楽しむ。船内では、団体の外国人客、台湾のカップル、4人家族などさまざまな集いがあり、食事は定石の揚げたての天ぷらだ。アナゴが最初に出てきてやはり東京ではこうくるなとうなずきこれをいただく。飲み放題付で10800円、サラリーマンにも「ふむふむ」と納得する値段だ。おかみが言う屋形船で楽しむ良い時期は4月上旬桜の時期、カップルで来るのもよし、家族でも楽しめる東京の観光名物として我々は認定をした。日本一楽しいヨットレース「TAMORI CUP」、飲んでの笑っての「屋台舟」を楽しみ、帰路に付く最終日は、浅草あたりをぶらりとさせて頂きました。(仁)

M田の淳さんが若かりし頃にバイトをしていた、名の知れた食堂～電気ブランの神谷バーを横目にお約束の雷門へ、記念写真をいただき沢山の人がかき分け浅草寺本堂へお参り、本堂前の大きな香炉では、沢山の線香や護摩焚きで煙がもうもうとしています、これを悪いとこへかけると良いらしく、井Kさんは毛髪にかけていた様な…。

のども渴いてきたので「浅草酒BA」にて冷たいビールを頂く…うまい。

第24回花びしカップヨットレース収支決算

収入	
会費	462,500円
協賛 花びしホテル	50,000円
NPO函館セーリング協会	50,000円
当協会より	100,000円
合計	662,500円
支出	
花びしホテル	329,000円
保険	10,808円
ビンゴゲーム	98,111円
副賞(お酒)	54,082円
ビール・お酒他	27,134円
トロフィー代	20,000円
スタッフ弁当代	7,533円
宿泊券	20,000円
じゃんけんポロシャツ代	20,000円
雑費	1,296円
合計	587,964円
残金	74,536円

レース結果は次号へ

あちこち散策したかったのですが、時間も無くスカイツリー見学を〆とすることに、まあデカイと言うより高いんですね、全体像が写真に写らない、景色や何やらはみなさん知っての通りですので割愛しますが、上ばかり見ているので、気が付いたら首が痛い！と言うことで制限時間いっぱいとなり、羽田へ。

すっかりお上りさんをさせて頂き、横浜&東京本当に楽しかったです、皆さんありがとう。次回も是非“GO”したいですね。以上、(浅草Ver,) 照充

家族旅行として、今年のタモリカップが余りにも楽しかったと、家族に吹聴していたので今年は東京在住の娘2人と妻も出席と言う、妻の還暦祝いを兼ねた家族旅行になりました。

家族では、私以外はどちらかと言えば量より質ですが、タモリカップの食べ物、飲み物には『美味しいー!!』の連発で、食べきれない、飲みきれないで大満足してもらったようです。1点だけ アイランドモルトのタリスカ、仕上げにブラックペッパー、だけは私も家族も好みではありませんでした、シングルモルト好きの方々にはお叱りを受けるかも知れません。

前夜祭が終わり、私は塘内さんのレディーホークへ、家族は桜木町のホテルから、みなと未来の夜景も楽しんで翌日の夕方合流し、人生初の屋形船、おかみが盛り上げ上手で乗り合いの他のグループと一体になって天麩羅等、お酒、カラオケとカリフォルニア仕込の踊り、お台場の夜景にも大満足、大成功の家族旅行でした。

次女のフェイスブックのコメントに『日に焼けた、いけてるオヤジ大集合、オヤジパワーすごい!』とありました。(井口)

アンカーライト

第23話は紙面の都合により次号へ

平成26年9月3日

関係各位

一般財団法人
函館国際水産・海洋都市推進機構
代表理事 石尾 清広



マリノフェスタ2014への御協力にかかる御礼について

時下、益々御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、このたびは当機構主催のマリノフェスタ2014におきまして、特段の御協力を賜り心より御礼申し上げます。

お陰様で約2,800名もの来場者があり、多くの市民や観光客の方々に、水産・海洋分野の研究を知ってもらい、また水辺の生物に触れる機会や海での体験プログラムを提供することができ、イベントを成功裏に終えることができました。(詳細は、添付 事業報告書をご参照下さい。)

当機構は、函館市国際水産・海洋総合研究センターを中心として、函館国際水産・海洋都市構想を推進しており、将来を担う子どもたちや市民に対し、このように身近に水産・海洋に触れることのできる機会を設けることは、とても意義深いものと考えております。

今後とも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまの益々の御発展をお祈り申し上げます。

【連絡先】一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構
〒040-0051 北海道函館市弁天町20番5号
函館市国際水産・海洋総合研究センター内 事務局
(担当:伊藤品、五十嵐)
TEL: 0138-21-4700 / FAX: 0138-21-4601